

分担研究報告

(1) MSM の薬物使用・不使用に関わる要因の調査 ～男性とセックスをする男性向けの出会い系アプリ利用者の意識や行動に関する調査～

研究分担者：生島 嗣(特定非営利活動法人ぶれいす東京)
研究代表者：樽井 正義(特定非営利活動法人ぶれいす東京)
研究協力者：野坂 祐子(大阪大学大学院)
山口 正純(武南病院)
林 神奈(サイモンフレイザー大学)
三輪 岳史(特定非営利活動法人ぶれいす東京)
大槻 知子(特定非営利活動法人ぶれいす東京)
大島 岳(一橋大学大学院)
井上 洋士(放送大学)
仲倉 高広(京都大学大学院)
藤田 彩子(東京大学大学院、特定非営利活動法人ぶれいす東京)
若林 チヒロ(埼玉県立大学)

研究要旨

これまでの HIV 陽性の MSM (男性とセックスを行う男性 / Men who have Sex with Men) を対象にした研究から、MSM の薬物使用と性行動には密接なつながりがあり(生島ら, 2013)、ハッテン場やゲイ向けクラブ等での薬物の販売や使用を目撃したり、セックスの相手から勧められたりしたことがきっかけとなって、薬物使用が開始される場合があることが確認されている(生島ら, 2014)。また、薬物使用の開始時期の多くは感染判明前であることが明らかになっている(若林ら, 2015)。本研究では、MSM の出会いに関連した環境が個人の性行動や薬物使用行動に与える影響を把握することを目的に、多くの MSM が出会いや交流を目的に利用する国内最大のゲイ向けアプリ業者の協力を得て、その利用者にターゲットを絞った調査を行った。

現在、データ・クリーニング中であるため、途中経過を報告する。調査協力を得たアプリ上で1ヶ月にわたり広告を出稿し、調査の説明サイトへの誘導を行った。そのアクセスは 24,977 人であり、そのうち説明に同意し、回答を試みた者は 10,544 人であった。MSM 向けの出会い系アプリ利用者の特性を把握するのに役立つデータが収集できた。全問(97 問)に回答した者は 72% (7,587 人)であった。回答者にはトランスジェンダーも含まれるなど、セクシュアリティは多様であることが確認された。全問回答者のうち、25.1% が薬物使用経験があると回答した。使用のきっかけは「自ら望んで」20.0%、「相手に誘われて」71.6%、「自分の同意がないまま摂取していた」8.3%であった。

今後、データの精査をすすめつつ、分析を継続し、使用 / 不使用の分岐に関わる要因について明らかにしていきたいと考えている。

A 研究目的

MSM の出会いに関連した環境が個人の性行動や薬物使用行動に与える影響を把握することを目的とする。MSM (HIV 陰性者と陽性者、薬物未使用

者と使用者)に対する半構造化面接による予備調査 (N=20 人、1 年目)を踏まえ、出会い系 SNS 利用者において、薬物使用を目撃する、他者から薬物使用を勧められるといった経験がどのような形であるのか、それぞれの分岐点においてどのような契機が

薬物の使用と不使用に作用するのか等を調査する。分析により、薬物使用をしない、止める、そしてHIV感染を防ぐ方向に作用する要因を明らかにし、HIV感染予防を促進するために必要な支援策を探る。

B 研究方法

前年より、当研究班の研究成果を周知するとともに、今年度実施したwebアンケート調査の広報に役立てるため、web LASH.online を立ち上げた。このサイトは主にゲイ・バイセクシュアル男性(MSM / Men who have Sex with Men/ 男性とセックスをする男性)を対象に、LOVE ライフ、セクシュアルヘルス(性の健康)、メンタルヘルス(こころの健康、薬物使用など)に関する情報を発信している。また、研究成果のフィードバックもこのサイトを通して行う予定である。

初年度の面接による予備調査の結果をもとに、質問票を作成した。紙面によるアンケートによるプレテストを10人のMSMに実施し、対面による聞き取りを行った。回答時間の把握と答えにくい点などの聞き取りを行い、改良を加えた。それにより、計97問、回答時間30～40分と予想される質問票に改訂した。この過程で、MSMを対象にした出会い系アプリ利用者にトランスジェンダーも含めた多様なセクシュアリティの利用者が存在することが予想されたため、トランスジェンダーである5人にも協力を依頼し、プレテストを行い、回答がしやすいよう、さらに改良を加えた。

【調査期間】

調査期間は、2016年9月22日～同年10月22日であった。

【調査方法】

出会いを目的としたアプリを利用する、ゲイ・バイセクシュアル男性(トランス男性などを含む)を対象に調査を実施した。N社が運営する国内最大のアプリの起動時にランダムに表示されるバナー広告を有償で出稿し、調査の説明を行うための一般からはアクセスできない限定公開ページに誘導し、同意を得た者にwebアンケートを表示した。調査の流れは、N社が運営するアプリ上に出稿したバナー広告から、調査説明ページ(限定公開ページ)、webアンケート(SurveyMonkey)となる。

今回の調査で協力を得たN社が運営するゲイ向け出会い系アプリは国内最大で、日本全国及びアジアに26万人の会員がおり、アクティブユーザーは15万人だという。また、責任者によると、国内ユーザーが6割で、10代～20代のユーザーが半分を占めるといふ。このアプリ運営者に宣伝段階から協力を依頼した。

調査項目については次頁に掲載する。

【広報】

「なぜなにアンケート LOVE & SEX 調査」とタイトルをつけ、調査の広報の制作には、アプリ業社Nによる協力を得た。バナー広告は5回に分けて有償で出稿した。調査開始前の1週間にわたり、LASH.onlineの宣伝を行った。その後の調査に関する4回の広告出稿はデザインを変更しつつ、関心を高める働きかけを行った。



LASH 広報



第1週バナー広告



第2週バナー広告



第3週バナー広告



第4週バナー広告

調査項目

属性

- | | | |
|---------|---------------|----------------------|
| Q 1. 性別 | Q 2. セクシュアリティ | Q 3. トランス・ゲイ男性との交流経験 |
| Q 4. 年齢 | Q 5. 居住地 | Q 6. 国籍 |
| Q 7. 学歴 | Q 8. 主な職業 | Q 9. 性の興味の対象 |

パートナーシップ制度の利用

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| Q 10. 結婚やパートナーシップ | Q 11. パートナーシップ制度の利用意向 |
|-------------------|-----------------------|

思春期

- | | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| Q 13. セックスの初体験の時期 | Q 14. 初めて友達ができた時期 | Q 15. 初めて恋人ができた時期 |
|-------------------|-------------------|-------------------|

パートナーシップと性行動

- | | | |
|--------------------------------------|-----------------------|----------------------|
| Q 12. 過去半年に利用（参加）したツール / 施設 / グループなど | | |
| Q 16. 過去半年のセックスの人数 | Q 17. 過去半年の複数セックスの経験 | |
| Q 18. 出会いの場面での態度 | Q 19. セックス相手選びで重視すること | Q 20. パートナー選びで重視すること |
| Q 21. 過去の最長の交際期間 | Q 22. 恋愛とセックスのイメージ | |

性行動と予防行動(そのほか / 過去半年)

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| Q 23. セックス相手の有無 | Q 24. 直近の相手と知り合ったきっかけ |
| Q 25. 過去 6 ヶ月間にした行為 | Q 26. コンドーム無しフェラチオ |
| Q 27. アナルセックスの有無 | Q 28. 場面ごとのアナルセックスとコンドーム使用頻度 |

性行動と予防行動(セフレ / 過去半年)

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| Q 29. セックス相手の有無 | Q 30. 直近の相手と知り合ったきっかけ |
| Q 31. 過去 6 ヶ月間にした行為 | Q 32. コンドーム無しフェラチオ |
| Q 33. アナルセックスの有無 | Q 34. 場面ごとのアナルセックスとコンドーム使用頻度 |

性行動と予防行動(パートナー / 過去半年)

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| Q 35. パートナーの有無 | Q 36. 直近の相手と知り合ったきっかけ |
| Q 37. 過去 6 ヶ月間にした行為 | Q 38. コンドーム無しフェラチオ |
| Q 39. アナルセックスの有無 | Q 40. 場面ごとのアナルセックスとコンドーム使用頻度 |

HIV 検査に関する会話 / セロソーティング

- Q 41. セックス相手から検査結果を質問された経験
- Q 42. セックス相手に検査結果を伝えた経験
- Q 43. セックス相手から HIV 検査結果を伝えられた経験
- Q 44. 過去 6 ヶ月間にコンドーム無しのアナルセックスをした経験
- Q 45. 過去 6 ヶ月間のセロソーティング等(陰性同士、陽性同士、治療の効果を確認など)

HIV 検査行動

- | | |
|------------------|-------------------|
| Q 46. 過去の受検行動の有無 | Q 47. 最後に受けた検査の時期 |
| Q 48. 検査結果 | Q 49. 受けない理由 |

HIRI-MSM (足りない質問)

- Q 50. 過去 6 ヶ月間の受け手側(ウケ)のアナルセックスの回数
- Q 51. これまでに、HIV 陽性の男性のセックス相手の人数
- Q 52. 過去 6 ヶ月間の HIV 陽性の男性との挿入側(タチ)アナルセックスの回数

PrEP(HIV 暴露前予防) / PEP(HIV 暴露後予防) の意識

- Q 53. PrEP の認知
Q 54. PrEP の服薬希望
Q 55. PrEP の服用で気になること
Q 56. PrEP のコンドーム使用への影響
Q 57. PEP の認知
Q 58. PEP の服薬希望

HIV の意識

- Q 59. HIV の身近感
Q 60. HIV 陽性者の友達や知人の有無
Q 61. HIV の流行中心が MSM である認識
Q 62. HIV 陽性であるかないかの話しやすさ

基本知識 10 問(○、×)

- Q 63. 治療とウイルス量の変化、性感染症と HIV 感染の関連、早期治療の重要性、医療費助成制度の存在、検出限界以下だと感染は起こりにくい、知らずにいると誰かにウイルスを渡す、オーラルセックスのリスク、MSM が主要感染経路、コンドームが感染症に有効、プライバシーは守られる

嗜好品

- Q 64. 過去 6 ヶ月間の喫煙
Q 65. 過去 6 ヶ月間の飲酒

薬物の意識 / 使用行動

- Q 66. ドラッグの話題の話しやすさ
Q 67. ドラッグ・薬物使用のイメージ
Q 68. ドラッグ・薬物使用の目撃経験
Q 69. ドラッグ・薬物使用の被誘惑経験
Q 70. ドラッグ・薬物の使用経験
Q 71. ドラッグ・薬物の最終使用時期
Q 72. 初めての薬物使用の場所
Q 73. 初めての薬物使用の相手
Q 74. 使用開始年齢
Q 75. 薬物使用の状況
Q 76. ドラッグや薬物を使う理由
Q 77. ドラッグや薬物を使わない理由

ストレスと対処行動

- Q 78. 悩みやストレスの有無
Q 79. 悩みやストレスの内容
Q 80. 相談行動
Q 81. ストレスの対処行動

人間関係やネットワーク

- Q 82. 当事者の友人と知り合った方法
Q 83. 親へのカミングアウト経験
Q 84. 職場 / 学校でのカミングアウト
Q 85. 心を許せるゲイの友達の有無
Q 86. 心を許せるレズビアン of 友達の有無
Q 87. 心を許せるトランスジェンダーの友達の有無
Q 88. 心を許せる異性愛者の友達の有無

自己肯定感

- Q 89. 性のめざめ時、現在の肯定感
Q 90. 自身の自己評価が上がったこと

ストレス・スクリーニング尺度(K6)

- Q 91. ストレスに関する 6 つの質問

Sexual Compulsivity スケール日本語版 Ver.1

- Q 92. 性的な行動、依存や脅迫的な傾向に関する 10 の質問
Q 93. 過去 6 ヶ月間の性に関する行動と日常生活への影響

いじめ経験 / トラウマ体験

- Q 94. 子どもの頃のいじめ(セクシュアリティを理由としたもの、それ以外)
Q 95. 虐待、ネグレクト、家族に依存者、家族内の自殺者など、子ども期の逆境体験の有無
Q 96. 性被害(12 歳以前、思春期以降)、被脅迫、脅しの経験
Q 97. 職務質問を受けた、逮捕された、住む場所がない、セックスワーク経験

被写体のモデルは、N社の協力により、N社登録のイメージモデルから3人をリクルートし、有償でイメージモデルを務めてもらった。また、バナー広告には、回答者に安心してもらうため、LASH.onlineとN社のロゴマークも配置した。

4回の広告は、1回目には、先着500人にギフト券(500円)をプレゼントする旨が表記されていたが、2日間で予定数に達したため、2回目以降からは、プレゼントに関する記載はせずに出稿した。また、調査の説明サイトでは調査開始3日後にプレゼントが終了したことを告知した。広告には、回答することがよい振り返りになること、回答には約30分を要すること、途中で終了した場合でも、回答内容が保存されていることなどを周知した。

(倫理面への配慮)

調査実施に関しては、NPO法人ふれいす東京倫理委員会にて審査を受け、承認された。調査協力者にはwebサイト上で、匿名の調査であること、自由意志による回答で、いつでも回答が止められることなどについて説明を行い、同意を得た。

研究結果

1. web アンケートへのアクセス状況と回答者

調査説明ページの訪問者について Google アナリティクスによりアクセス分析を行った結果、訪問者数は24,977(新規ユーザーのみ)であった。この訪問者が利用するモバイル端末の機種は、iOSが64.30%であり、Androidが35.53%であった。このことから、訪問者の99.83%はスマートフォン及びモバイル端末からのアクセスであると推測された。

web アンケートは、調査説明ページの訪問者の42.2%にあたる10,544人が回答した。そのうちの72.0%にあたる7,587人が98問すべての質問に回答していた。回答者はCookieにより重複解答が防止されており、IPアドレスにより確認したところ、重複解答は認められなかった。

結果、調査説明サイトへのアクセスは24,977人であり、そのうち回答を試みた者は10,544人、そして最後まで回答した者は7,587人(アクセス者の

30.4%)であった。

2. 主な結果

現在、分析中であり、本稿では回答者属性と薬物使用状況に関する結果について暫定的な数字を示す。

1) 性別

「男性」と回答したものが最も多く(98.6%)、「トランスジェンダー」や「決められない」という回答者も存在した(表1.1)。

表 1.1 回答者の性別

	n	%
男性	7,483	98.6
トランス男性	26	0.3
トランス女性	42	0.6
その他(X, 決められない)	36	0.5
合計	7,587	100.0

2) 回答者の年齢

回答者の年齢は「20代」が最も多く(35.7%)、10代から30代で全体の約7割を占めており、比較的若い世代の回答が得られた(表1.2)。

表 1.2 回答者の年齢

	n	%
10代	259	3.4
20代	2,710	35.7
30代	2,281	30.1
40代	1,897	25.0
50代	403	5.3
60代以上	37	0.5
合計	7,587	100.0

3) 性の興味の対象

回答者の性の興味の対象は「男性だけ」が最も多く(81.2%)、男女を性的対象にする者は合計して18.5%ほど存在した(表1.3)。

表 1.3 性の興味の対象

	n	%
男性だけ	6,161	81.2
男性がメインだが女性も	1,154	15.2
女性がメインだが男性も	89	1.2
男性と女性と同じくらい	163	2.1
誰にも性的な興味はない	20	0.3
計	7,587	100.0

4) これまでにドラッグ・薬物を使った経験

これまでに薬物の使用経験があると回答した者は25.1%であり、一度もない者が74.9%であった(表1.4)。

表 1.4 これまでの薬物使用経験の有無

	n	%
はい	1,907	25.1
いいえ	5,680	74.9
合計	7,587	100.0

5) 初めてドラッグ・薬物を使用したときの状況

上記4)で薬物使用経験があると回答した者のうち、初めて薬物使用に至った状況を尋ねたところ、「自ら望んで」という自発的な使用が20.0%で、「相手に誘われて」という他者からの誘いから使用した者が71.6%、「自分の同意がないまま」という、知らぬ間に使用していたという回答者も8.3%存在した。

表 1.5 初めて薬物を使用したときの状況
【薬物使用経験者のみ回答】

	n	%
自ら望んで	382	20.0
相手に誘われて	1,366	71.6
自分の同意がないまま摂取していた	159	8.3
	1,907	100.0

6) ドラッグ・薬物の最終使用時期

上記4)で薬物使用経験があると回答した者のうち、セックスの場面に限らず、使用したドラッグ・薬物の「種類」と、それらを最終使用したときの「時期(1年未満、1年以上前)」を尋ねたところ、薬物使用は「ラッシュ」(1年未満:5.0%、1年以上前:17.6%)と最も多く2割を超えた。次いで「ぼっき薬・ED薬」(1年未満:8.8%、1年以上前:5.8%)であったが、この薬剤が医師の処方に基づくものなのかは不明である。そのほか、触法の薬物としては、「脱法ドラッグ」(1年未満:1.6%、1年以上前:7.1%)、「大麻」(1年未満:0.8%、1年以上前:4.5%)、「覚せい剤」(1年未満:1.0%、1年以上前:2.5%)などであった(図1.1及び表1.6)。

図 1.1 ドラッグ・薬物の種類と最終使用時期

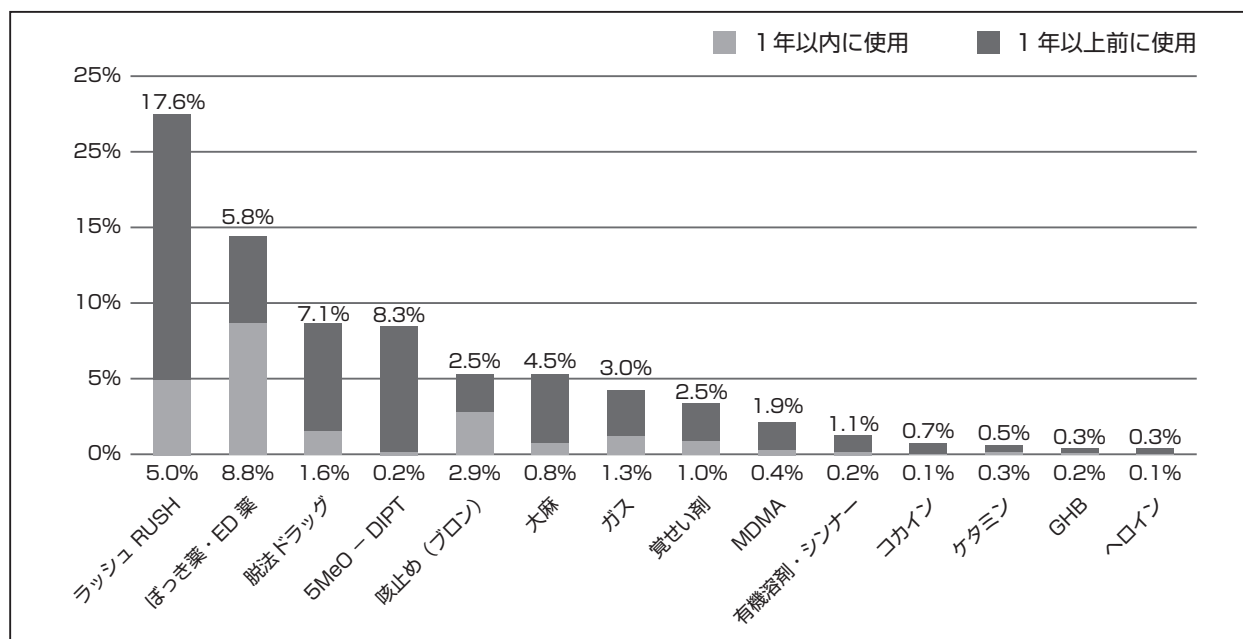


表 1.6 ドラッグ・薬物の種類と最終使用時期

	ラッシュ		ぼっき薬・ED薬		脱法ドラッグ		5MeO-DIPT		咳止め（ブロン）		大麻		ガス	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1年未満	379	5.0	666	8.8	125	1.6	17	0.2	219	2.9	64	0.8	100	1.3
1年以上前	1,336	17.6	437	5.8	540	7.1	633	8.3	188	2.5	344	4.5	228	3.0
経験なし合計	5,872	77.4	6,484	85.5	6,922	91.2	6,937	91.4	7,180	94.6	7,179	94.6	7,259	95.7
合計	7,587	100.0	7,587	100.0	7,587	100.0	7,587	100.0	7,587	100.0	7,587	100.0	7,587	100.0

	覚せい剤		MDMA		有機溶剤・シンナー		コカイン		ケタミン		GHB		ヘロイン	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1年未満	75	1.0	27	0.4	17	0.2	7	0.1	20	0.3	14	0.2	7	0.1
1年以上前	189	2.5	142	1.9	83	1.1	55	0.7	35	0.5	25	0.3	26	0.3
経験なし合計	7,323	96.5	7,418	97.8	7,487	98.7	7,525	99.2	7,532	99.3	7,548	99.5	7,554	99.6
合計	7,587	100.0	7,587	100.0	7,587	100.0	7,587	100.0	7,587	100.0	7,587	100.0	7,587	100.0

D 考察

出会い系アプリというサイトの性質上、GPS機能を搭載した端末でのみ利用可能なアプリであったことから、回答者の多くはスマートフォンなどのモバイル機器による訪問だと予想されたが、アクセス解析によりそれが確認された。

バナー広告から説明ページを訪問したユーザー(n=24,977)の42.2%が回答を開始し、そのうちの72.0% (n=7,587)がすべての質問に回答していた。国内最大のゲイ向け出会い系アプリのユーザー集団の特性を十分に説明できるサンプリングができたと考えられる。また、回答者の年齢も「20代」が最も多く、比較的若い世代の性行動や薬物使用行動についてのデータを得ることができた。

本研究の対象は、MSMのための出会い系アプリを利用する男性であったが、回答者7,587人の性別は「男性」だけでなく「トランスジェンダー」や「その他(X、わからない)」を自認する人もおり、さらに、回答者の性の興味の対象も、「男性だけ」が約8割と多数ではあったが、約2割は男女を対象にしており、MSMのセクシュアリティの多様性が確認された。今後、MSMを対象としたHIV予防啓発をするうえで、こうした多様な性の実態に合わせた内容にしていく必要があることが示唆された。

回答者の薬物使用経験については、当研究班がこれまでに実施したHIV陽性者を対象にした調査データと比較すると、本研究の回答者の薬物使用率はかなり低い。しかし、一般の住民集団に比較する

と、MSMの薬物使用割合は低いとはいえ、より詳細な分析が必要とされる。とりわけHIV陽性と薬物使用の関連について、今後さらに検討していく必要がある。

薬物使用のきっかけとしては、「相手に誘われて」というものが7割以上を占めており、性的な関係性のなかでの使用が多いことが示された。また、「自分の同意がないまま摂取していた」という体験も1割程度報告されており、今後、薬物使用の状況や文脈について検討していく。

薬物使用経験者のなかで使用されていた薬物の種類は、「ラッシュ」が最も多いことが明らかとなった。ラッシュは2015年までに段階的に取り締まりが強化され、現在は指定薬物として取り締まりの対象になっている。しかし、調査時点から過去1年以内にもラッシュを使用した人が、回答者全体の5.0%であったことから、今後、法体系について周知をしつつ、使用者のニーズにあわせた新たな対処方法の提案が求められている。

本調査結果は、現在、データ・クリーニング中であり、終わり次第、詳細な分析に移る。1ヶ月間にわたる本調査の実施にあたり、調査を開始した最初の週の広報において、「先着で500人に500円のプレゼントがある」と告知していたため、回答者のなかでインセンティブがあった者とそうではない者がいる。インセンティブが付与された最初の1週間とそれ以降の調査で、回答傾向に差があるかどうかを確認するため、複数の研究者により精査を行う予定である。インセンティブの付与は、社会貢献を目

的に回答しようとする回答だけでなく、普段は社会調査に消極的である人も対象として取り込める可能性があるものの、回答者のバイアスについて慎重に対応する必要がある。

また、本調査票には、国内や海外のデータと比較するための複数の変数を組み込んでいるため、今後はそれらの変数を用いて、MSMの薬物使用に影響する具体的な分岐点を明らかにし、分析結果をHIVと薬物使用に関する効果的な啓発に役立てていく予定である。

E 結論

現在、データの精査中であるため、途中経過を報告する。アプリ上で1ヶ月にわたり広告を出稿し、調査説明サイトへの誘導を行った。そのアクセスは24,977人であり、そのうち説明に同意し、回答を試みた者は10,544人、全問(98問)に回答した者は7,587人(アクセス者の30.4%)であった。出会い系アプリの利用者集団の特性を把握するのに役立つサンプリングができたと考えている。

回答者の性別は「男性」だけでなく「トランスジェンダー」や「その他(X、わからない)」を自認する人もおり、さらに、回答者の性の興味の対象も、「男性だけ」が約8割と多数ではあったが、約2割は男女を対象にしており、MSMのセクシュアリティの多様さが改めて確認された。今後、MSMを対象としたHIV予防啓発をするうえで、こうした多様さの実態を踏まえていくことが必要であることが示唆された。

全問回答者のうち薬物使用経験があると回答したものは25.1%だった。その使用のきっかけは、「自ら望んで」20.0%、「相手に誘われて」71.6%、「自分の同意がないまま摂取していた」8.3%であった。

今後、データの精査をすすめてつつ、分析を継続し、使用/不使用の分岐に関わる要因について明らかにしていきたいと考えている。

参考文献

1) 生島嗣, 野坂祐子他: 薬物使用者を対象にした聞き取り調査—HIVと薬物使用との関連要因をさぐる—厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業

平成 25 年度総括・分担研究報告書・地域において HIV 陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究, 97-104, 2013.

2) 生島嗣, 野坂祐子他: 薬物使用者を対象にした聞き取り調査—HIVと薬物使用との関連要因をさぐる—厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業 平成 26 年度総括・分担研究報告書・地域において HIV 陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究, 189-202, 2014.

3) 若林チヒロ, 生島嗣, 大槻知子: 身近な人から薬物使用について相談されたら 厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業 地域において HIV 陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究, 1-4, 2014.

4) Peter Hull, Limin Mao, Johann Kolstee, Tim Duck, Garrett Prestage, Iryna Zablotska, John de Wit, Martin Holt: Gay Community Periodic Survey Sydney. 2015.

5) 若林チヒロ, 生島嗣他: HIV 陽性者の生活と社会参加に関する研究, 厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業 平成 25 年度総括・分担研究報告書・地域において HIV 陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究, 39-96, 2014.

6) 嶋根卓也, 日高庸晴他: インターネットによる MSM の HIV 感染予防に関する行動疫学研究 -REACH Online 2011-, 厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業 平成 24 年度総括・分担研究報告書・HIV 感染予防対策の個別施策層を対象にしたインターネットによるモニタリング調査・認知行動理論による予防介入と多職種対人援助職による支援体制構築に関する研究, 127-249, 2012.

7) 塩野徳史, 市川誠一他: 日本の成人男性および成人女性における個別施策層の状況と HIV 抗体検査行動, 性行動に関する研究, 厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業 平成 26 年度総括・分担研究報告書 MSM の HIV 感染対策の企画, 実施, 評価の体制整備に関する研究, 303-320, 2014.

F 研究発表

1. 論文発表

- 1) 生島嗣 .HIV 陽性者支援の現場から—MSM (男性とセックスをする男性)への支援を中心に . ころの科学 186 号 .52-56, 2016.
- 2) 生島嗣 . LGBT と HIV. ころの科学 189 号 . 62-65, 2016.
- 3) 生島嗣 . ぷれいす東京の活動について . 病原微生物検出情報 37, 9: 8-10, 2016.
- 4) Hayashi K., Wakabayashi C., Ikushima Y., and Tarui M. High prevalence of quasi-legal psychoactive substance use among male patients in HIV care in Japan: a cross-sectional study. Substance Abuse Treatment, Prevention, and Policy 12:11, 2017.

2. 学会発表

- 1) 生島嗣、野坂祐子、山口正純、藤田彩子、大島岳、三輪岳史、大槻知子、林神奈、樽井正義 . MSM の薬物使用・不使用に関わる要因の調査～薬物使用経験のある MSM を対象としたインタビュー調査から . 日本エイズ学会、2016 年、鹿児島 .
- 2) 佐藤郁夫、福原寿弥、生島嗣、岩橋恒太、荒木順子、岡慎一、高野操 . 医療機関と NGO の連携による HIV 検査キット配布会における対面相談希望者の相談内容に関する検討 . 日本エイズ学会、2016 年、鹿児島 .
- 3) 高野操、岩橋恒太、荒木順子、佐久間久弘、木南拓也、生島嗣、佐藤郁夫、中山保世、小日向弘雄、友成喜代美、土屋亮人、杉野祐子、池田和子、小形幹子、田中和子、市川誠一、菊池嘉、岡慎一 . 医療機関と NGO の連携による郵送検査の手法を用いた HIV 検査の取り組み . 日本エイズ学会、2016 年、鹿児島 .
- 4) 岩橋恒太、高野操、荒木順子、木南拓也、佐久間久弘、生島嗣、市川誠一、岡慎一 . 医療機関と NGO の連携による、MSM を対象とした HIV 検査 "HIVcheck" における啓発とキット配布体制に関する検討 . 日本エイズ学会、2016 年、鹿児島 .
- 5) Ohtsuki, T., Wakabayashi, C., Ikushima, Y., Yamaguchi, M., and Tarui, M. Resolved

and unresolved issues among people living with HIV in Japan after 10 years of advancement in medical environment: results from nationwide multicenter surveys from 2003 to 2013. The 21st International AIDS Conference, July 18-22, 2016, Durban, South Africa.



知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし